二谷：皆さんこんにちは。インタビュアーの二谷誠です。

本日はですね、ひまわり証券の元代表取締役の北川社長にお越しいただいてですね、色々お話を聞かせていただきたいと思います。

北川社長なんですけれども、もう金融業界に40年近くいらっしゃる方で、相当業界のことも詳しいですし、金利についてもかなり稼げる情報を持っていらっしゃるということですので、今日は色々聞かせていただきたいと思いますので、本日はどうもよろしくお願いいたします。

北川：こちらこそよろしくお願いします。

二谷：ひまわり証券っていうと、凄く有名な証券会社だと思うんですけれども、僕もちょっと調べてみたところ、もともとアレですよね。今もう、凄く有名なFX。

野村証券、大和証券、SBI、どこでもやってるあのFXを1番最初に日本で導入された証券会社ですよね？(00:55)

北川：そうなんですね。日本で初めてFXを導入した会社と言われていますけれども。

実は、ひまわり証券という名前の前にですね。

商品先物取引の専業会社のダイワフューチャーズという会社で。

ここの会社が作った商品なんですね。

二谷：なるほど。

北川：当時、1990年。非常に、バブルが崩壊しましてですね。

銀行も潰れる、あるいは証券会社も潰れるというような状況の中で、商品先物業界も非常にやはり経営が苦しくなったということで、私どもも何か新しい商品先物取引に変わるビジネスはないかということで、社員にアイディアを募集したりしましてですね、新しいビジネスを手がけてきました。

社員ですから、その辺にあるビジネスを持ってくるんですけれども、中にはラーメン屋さんとかね。

二谷：ラーメン屋さん。

北川：蒲田の駅前に頑固ラーメンっていう店を出しまして、非常に美味しいラーメン屋さんだったんですけれども、ラーメンを上げる人の給料が70万円だったものですから。

二谷：70万円ですか？(02:07)

北川：採算が悪くなって閉めました。それ以外でも、目黒の駅前に日比谷バーという洋風居酒屋を開業しました。これは3年くらい続けて、ずっと利益も出ておったんですけども、まぁ本業に変えろと、本業回帰ということでもってこれも閉めました。そういった中で1998年にですね、外国為替管理法という俗に外為法といいますけども、これが改正さるということになりました。それの1年前にですね、FXというものが海外にあるらしいと。

二谷：もともと海外でFXはあったんですね。(02:48)

北川：そうなんです。特に香港、アジア、シンガポール、こういうところでも盛んに行われておったんですけども、これをぜひ日本に持って来ようというようなことでですね、今現在トレンダーズ証券のですね、社長をしています金丸さん、彼がリーダーとなりまして、もう一人サブリーダーにですね、マネースクウェア・ジャパンのオーナー会長であります山本さん。この2人が中心となりまして、当時の財務省と何度も何度もヒアリングを重ねまして、そして1998年10月8日にリリースしました。日本で初めてFXの取引がスタートしたのがこの10月の8日なんです。

二谷：なるほど。

北川：ですから、日本記念協会の登録には10月8日は「FXの日」というふうに、いま定められております。

二谷：なるほど。じゃあ、そういったプロジェクトを立ち上げて一緒に日本に持って来たと。

北川：そういうことです。ですから、このFXというのは、銀行でもない、証券会社でもない、商品先物取引の会社が世に送り出した商品なんです。

二谷：なるほど。(04:00)

北川：そのダイワフューチャーズが、なぜ今ひまわり証券と名前を変えたかといいますとですね、FXで我々ある程度成功をおさめそうになってたものですから、もっとないかということで、今度大阪に日経225先物というのが上場されました。

大手の証券会社は先物ですし、レバレージが世に効いてるということでリスクがあるものですから、あんまり手掛けてなかったんですね。

我々はこれに注目しまして、是非これも売ろうじゃないかということで、売るためには証券会社であるわけですから、当然、会社の名前の後ろになになに証券という名前を付けなきゃならない。

当時はダイワフューチャーズかダイワフューチャーズ証券という名前にしようということで、一応大和証券にお伺い立ててですね、こういう名前を付けて証券やりたいという話を持って行きましたら、実はその会社は我が社のシンガポールの現地法人にあると。

二谷：もうすでにある。(05:00)

北川：ということで、「その社名はダメだ」と、大和証券が許してくれなかったものですから、社員から公募しました。私は経営の中枢にいたんですが一票あげまして、ひまわり証券という名前を私はあげました。

二谷：なるほど。

北川：私は当時、営業本部長だったものですから、その立場を利用しまして、是非ひまわり証券でいきたいと。

二谷：これで行きたいと。

北川：役員会で話しまして、反対もあったんですけどね、あの、「ひ」といのは外人が読めないんですね。「HI」ていうのは、「ひ」というのが言えない。「はいまわり」という。

それで、外国の国際事業部の部長さんに相当反対されましたけども、押し切ってひまわり証券という社名にしました。

それで日経225を始めて、証券業界のなかでも、初めて手掛けたといっても過言じゃないということなんですね。(06:02)

二谷：じゃあ、FXを始めて、日経225の先物も始めてといえば、業界では新しいことをどんどんクリエイトしてきたと。

北川：そうですね。ですから、経営が苦しくなったのは、災い転じて福となすといいますかね、いろんなものを手掛けて、それがビジネスとして軌道にのっていくというような流れがありました。

その後にも証券CFDというものも世に出しまして、これもやはり海外ではあったんですけども、日本国内ではやってない。

CFDという言葉、みなさん耳慣れない言葉かもしれませんけども、簡単に言いますと相対での差金決済、つまり取引所で値段を決めるんじゃなくて、お互いに証券会社のお客さんで値段を決めて、そして取引をするという建て付けになっている商品なんですね。

二谷：なるほど。

北川：ですから、これは世界中どの国の株も相対で売り買いができる。

二谷：株も今、相対取り引き？

北川：そうなんです。できますね、それものね。(07:00)

当時はヨーロッパのオランダにですね、この相対取り引き、CFDをやってる会社がありまして、そこのプラットホームを使ってできるということだったものですから、当時の社長がオランダ飛びまして、向こうと契約してですね、日本で初めて証券CFDを始めたと。

二谷：なるほど。

北川：そういうような、ですから、FX、日経225先物、証券CFD、こういった新しい金融商品を世の中に、私どもは提供してきたという流れがございます。

二谷：そうなんですね。ちなみに、先ほどの相対取り引きというところなんですけども、僕もFXだとか株やってるんですけども、それは基本的に一般的なのはどちらになるんですか？その相対取り引きなのか、市場で取引されているのか。

北川：そうですね、主要取引といいますと、東京証券取引所、FXの場合は東京金融取引所というところ、ブランド名はクリック365というブランド名で取引されていますけども、これは取引所がやっている公正な価格がつくという市場なんですね。

二谷：なるほど。(08:04)

北川：もう一つは、そのCFDと同じ様に証券会社とお客様の間で取引をするFX、これがあります。で、一般的にインターネットで取引される場合は、この相対の取り引き。

二谷：ネットでやる場合は、相対が多いんですね。

北川：相対がほとんどです。逆に対面営業の場合は、クリック365、これが多いように感じております。

二谷：なるほど。じゃあ僕なんか今、SBI証券のやつをやってるんですけども、あれなんかは、じゃあ相対で売りたい人と買いたい人の値段で決まってるっていうことなんですね。

北川：そうですね。証券会社はお客様からいくらで買いたいというような注文が入ればですね、今はコンピューターでもって瞬時に値段を探しましてね、そしてお客様に提供するということをやっております。ただし、証券会社の中にはですね、新興の証券会社、俗にいうIT系とか、あるいは元ビデオ屋さんとかいうような証券会社もありましてね。

二谷：元ビデオ屋さん。(09:10)

北川：そういうところはどちらかというと、カウンターパーティーでその値段をもらうところが非常に少ないといいますか、1個しかないという場合があります。金融業界から出ている証券会社であれば、外国の銀行、アメリカ、あるいは、アジア、あるいは、ヨーロッパとカバーしていきますので、10個ぐらいの為替先といって、取引先を持っているんですけれども、そうじゃない会社もなかにはあるわけですね。よく「滑る」とかいうことを、「滑る」というのは要するに、相場が急変した時にですね、例えばドル円が119円50銭で買いたいと、今その値段がついてると、じゃあ、ここで買いたいから成り行きで出します。(10:00)

そうしますと、約定は119円90銭とか、プラス120円とか、自分が成り行きで出した、買いたいと思った値段からですね、30～50銭くらい不利な値段で買い付けされる場合があります。これをよく、「滑る」というんですけども、スリッページという呼び方で呼んでおります。

そういったことが多々起こる場合がありますので、FXの会社を選ぶ場合は、できるだけ滑らない、滑りの少ないFXの会社を選んだ方がお客様にとっては有利ということになります。

二谷：なるほど。先ほどちょっと個別で聞いたときに、証券会社の裏側でいうと、そのスリッページで儲けてる証券会社もあるみたいなのを聞いたんですけども。

北川：そうですね。相対取り引きですから、お客様が損すれば当然証券会社は儲かると。

二谷：お客さんが損すれば、証券会社が儲かる仕組みになってるんですね。

北川：理論上はそういうふうになるわけですね。

二谷：なるほど。ちょっとそれはショックですね。繋いでるだけなのかと思いきや。(11:01)

北川：100%じゃないですけども、そういうことが往々にして、大きく動いて、証券会社が、それを意図してしているわけじゃないんですけども。

先ほど言ったカバー先、値段をもらうところが一つの業者しかないと、銀行しかないということであれば、値段をもらえませんから、自然とお客さんに値段を渡すときなんか、相当お客さんが不利な値段、みなさんが不利な値段ということは、証券会社が有利な値段、これで渡してしまうということですから、お客さんの損に対して、全部の損じゃないですよ、瞬間的には損得に関しては証券会社が儲かってるということは言えます。

二谷：なるほど。じゃあ、もしFXの証券会社を選ぶ場合は、その何口と繋がってるかっていう、そういうのを調べてから口座開設した方が…

北川：そうですね、それが一番いいんです。なかなかそれは今は公開してませんので、インターネットで、スリッページの少ないところを検索していただければですね、そういうランキングが出てると思いますので、そういうところ調べて、スリッページの少ないところ、そういうところでお取引された方が有利かと思います。(12:04)

二谷：わかりました。ありがとうございます。で、今日はやっぱりね、あの、北川社長が来ていただいて、たぶん観ていらっしゃる方も一番聞きたいろことが、やっぱり色んなこういう裏情報をもっていらっしゃるじゃないですか。で、やっぱりどうやったら、投資でもっと儲かるのかだとか、その辺の秘訣だったりコツ、裏話、色々今日はちょっと聞かせていただきたいなと思うのですけれども、ま、僕も今、投資すごく勉強してるんですね。で、僕の周りでもけっこうセミナーに行ったりだとか、どういうのが儲かる、こういう銘柄がいいんじゃないとか、FX、株、色んな情報がすごくあるんですね。なんですけれども、みんなやっぱり勉強しても勉強しても、なかなかやっぱ勝てない。儲かったと思ったら、やっぱ損するっていうので、けっこうみんなこうやられて、どうしようみたいなので、よくみんなで慰め合って飲んだりだとか、「追証が～！」みたいので話したりするんですけれども、どうやったら長期的に稼いでいくことできるのかなっていうのがあるんですけれども。(13:02)

北川：そうですね。なかなか株でもFXでも、稼ぐというのは難しい部分があるんじゃないかと思いますね。ま、当時のアベノミクスからずっと為替も80円台～120円台まで、40円くらい上がってます。それから、日経225も7,000、8,000円上がってます。当然、一般の投資の方は相当儲けて、今年の確定申告は大変なんだろうなと、思っていますけども、実際聞いてみますと、あんまり儲かってないと。

二谷：そうなんですよ。個人レベルでいうと、意外とそんなに儲けてる人がいないなというのは、はい。

北川：そうですね。ですから、あれだけの東証一部、二部、あるいはジャスダックスね、そういうなかで、どれかをチョイスする、それでその上げ下げを予測するというのは、非常にこれは至難の業でしてですね、非常に難しい。(14:01)

ですから皆さま方、何とか情報を得るために、有名な投資の先生方の話を聞かれたり、勉強したりということをされておるんですけども。

非常に頭が下がりますが、果たしてそれで儲かっているのかと。

なかなか厳しいんじゃないかなと。先生方も過去に、経験があって、過去に儲けて、そういう実績があるからそういう公演で投資家の皆さま方が集まるんですけども。

じゃあその方が、ずっと儲け続けられるかといえば、それはなかなか難しいと思うんですね。俗にいう、ファンダメンタル、材料とかそういったもので、売り買いしてもですね、良い時もありますけども、今は右肩上がりですから、それなりの銘柄であれば、国策で株を上げてるような状況、あるいは国策で為替を円安に、円安ドル高にもっていっているわけですから、誰が買ってもある程度は儲かる。(15:02)

辛抱して持ってけばたぶん儲かるという時期だと思うんですけでも、これもどこかでやっぱり終りが来ると。で、終わった時にはみんさん調子のってやってるとご損されるとなりますから、勝ったり負けたりというのが相場の世界ですけども。

それをできるだけ長く続けるという方法もないではないわけです。

二谷：やっぱりそういう方法もあるということで。

北川：そうなんです。

二谷：その辺、今日はかなり色々聞きたいなと、思ってはいるんですけれども、ちょっと一つ聞きたいのが、やっぱり勝てる人と負ける人の違いみたいのって何かあるのかなって。

僕も、どう勉強してったらいいのかなっていうのをすごい今日は聞きたいなと思ったんですけれども。

北川：そうですね。お客さんの中でもですね、一般のお客様の中でも、やっぱり勝てる人というのは、やっぱり自分の売買指標といいますかね、そういったものをきちっとやっぱり持っていると。

こういう時はやる、こういう時はやらない、こういう時は売る、こういう時は買う、そういったものをしっかりやはり持っておられる方。

二谷：ルールみたいなのをね。

北川：そうですね。売買ルールとものを自分自分で決められて、取引される方は意外と儲けている。(16:02)

それが全くない、人の話を聞いてその通り買った売ったをする人は、やはり最後は人を恨むような、そういう結果になりがちですね。

二谷：じゃあ、推薦銘柄とか、これがいいんじゃないかっていうので、こう色々聞いてやってると、なかなかやっぱり難しい。

北川：そうです。ですから、何でもいいんですけども、売買ロジックというのをご自分でしっかりやっぱり、どうせ勉強するんですから、勉強されるにはそういったものをやっぱり造り上げてですね、そしてその通りにやっぱりやってみるということですよね。

二谷：なるほど。実際にどうやったらその勝てるルールというのはつくることができるんですか。

北川：それは、何でもいいんですよ。

出来高がこれだけ増えたら買うとかですね、売るとか、何でも相場のチャートの中からですね、そういったものを見つけていく。

ファンダメンタルで、その業績だとかそういったものを見つけても、ちょっとやっぱ遅いんですね。

業績がいいから買うとなっても、ほとんどそれはもう、100%とは言いませんけども、インサイダー的な情報で、もう買われてる場合が多いですから。(17:10)

決算発表見てから、業績良いから買いますという方いますけども、だいたい券状を掴むということですよね。

逆に、株はどんどん下がっているけども、すごくそこの社長は元気が良くてですね、すごいにこにこしてるとかですね、そういうことで買った方が意外と儲かる場合がありますので、そういったことをきちっと自分の中でどういった買い方をするのかということを、しっかり見つけるということですよね。

それが、大事かと思います。

二谷：なるほど。で、やっぱり北川社長もたぶん投資ずっと経験されて、周りにもね、色んな投資家の方いらっしゃると思うんですけれども。

実際にこう稼げるロジックいうか、どういうふうにすれば稼げるかっていうのとかって、何か具体的にあればちょっと聞かせていただきたいんですけども。（17:57）

北川：そうですね。あの、俗にいうファウンドマネージャーという方たちがおられますよね。

あの方たちは2種類ありましてね、一つは先ほど言ったファンダメンタルを使って、長期のスパンで収益をあげていくという。

ファンドですから長くやれば良い訳ですね。それと、もう一つはですね、専属のファウンドトレーラーというのがありますね。

彼たちは、自分であげた収益で給料を稼ぐ。もっといえば歩合制みたいな。

二谷：儲かった分のパーセンテージを。

北川：そうなんです、そうなんです。ですから、彼らは毎月毎月収益をあげないとダメなんですね。

半年間収益をあげなかった。

例えば、～だったらそこでもうクビですから、ものすごく確実にぬいていくというやり方をします。

そういった方は、やり方は完全にテクニカルチャート。

二谷：もうプロはテクニカルチャートを見てやってる。

北川：そうです。もうファンダメンタルは一切関係なしです。テクニカルだけを見て、そして取引をするということですね。(19:00)

しかも、使うチャートですね、これも月アシとか週アシそんなもんじゃないです。彼らがやってるのは、1分アシとか、あるいは5分アシとか、本当の短いスパンのチャートを使って、売り買いするということですね。

ですから、そういったテクニカルチャートを用いた売買ロジックをつくって、その売買ロジックを過去何年もバッグテストを行って、それでこれだけの収益が出るという確認を取って、それからスタートする。

ですから、間違いは非常に少ないんですね。

二谷：じゃあ、やっぱりその相場をつくってるのはそういった機関投資家、大きなお金をやってるところに乗ってった方が当然勝てるわけですよね？

北川：乗るというか、彼らの真似をするということですよね。

二谷：真似をすると。

北川：真似をして同じものをつくっていけばいいわけです。ただ、一般の方が1分アシとか5分アシとか、そういう短いチャートを見ることは、まず不可能なんですね。

二谷：ずっと見てなきゃ。(20:00)

北川：そうなんです。ですから、ご自分が見れる範囲のチャートを、日アシなら見れるよ、1日1回なら見れるよと、あるいは1日3回なら見れるよという方であれば6時間アシ、1時間おきに見れるよという方であれば1時日間アシ、そういったものを見て、どのチャートなら自分ができるかということを、まず。

二谷：じゃあ、自分のライフスタイルに合わせた形でのチャートを、まず選ぶというのが大切だということですね。

北川：それとあとは、自分の得意なですね、こういうテクニカルチャートは2種類あります。

一つは、トレンドフォロー型。トレンドフォロー型というのは、大きな流れに乗ってやるというやり方。

もう一つは、持ち合い型と言いましてですね、上下に売り買い売り買い、上下にぶれる相場ですね、値段があんまり動かないと、だけども上下に動いているというような逆バリセンボウというやつですね。

このやり方、どちらかをまず選んでいただく。(20:57)

そして次にはですね、何をやるか。FXなのか、証券なのか。

二谷：そこも今日聞きたいですね。いっぱいありますもんね。

北川：あるいは、証券先物取引なのか。何をやるのか。

そこはご自分の得意なの、私は逆バリが得意だよということであればFX。私はトレンドフォローが得意だよということであれば、日経225先物、あるいは商品先物取引、こういったものをやる。

なぜかと言いますと、FXというのは通貨ですから、通貨というのは各国の中央銀行とその政府が管理してます。

ですから、俗にいう管理相場なんですね。国が管理している相場です。

ですから、国が何かの政策に打ち出せば、相場は大きく動きますけども、それがひと様冷めちゃうと高値でもって持ち合う。

今のドル円が良い例ですね。最後に日銀が、最終の金融緩和をばっとやりました。為替120円を超えました。今、もう新しい秘策は何もないということで、為替は120円の下のところでずっと、今。

二谷：そうです。行ったり来たりしてますよね。(21:59)

北川：動いてる。だから、この持ち合いでもですね、1円、2円動いているわけですから、逆バリでもって120円売り、118円買いという、この1円を抜くんであれば確実に取れていけるわけですね。

二谷：なるほど。

北川：ただこれの欠点は、もしまた政府が、ある日突然何か発表したとなると、上に飛んでいきますから、その時は持ち合いの相場ですから大損する場合があると。

二谷：なるほど。細かくとって稼いでたのに、1回でゴンってやられてしまうみたいな。

いや～、それあるんですよね。

北川：そういうことですね。その逆が、例えば商品先物取引というのは、管理相場になります。

例えば金を例に取りますと、世界中の人たちが金を売ったり買ったり、機関投資家も現物の業者も一般の方も売り買いするわけですね。

ですから、常に値段が動いてる。これは金だけじゃなくて、私どもが今扱っているプラチナ、白金ですね。あるいはゴム、あるいはガソリン、こういったものもその動きをします。

ですから、そういったものはトレンドフォロー、持ち合いには弱いんです。

ですけど、大きなトレンドが出れば、大きくごそっと取るということで。(23:04)

二谷：特性が同じあれでも違うんですね。持ち合い型で動くのと、トレンドが。

北川：そうです。ですから、FXと商品先物、日経225とでは、同じ売買ロジックでは、やっぱダメだということなんですね。

二谷：いやぁ、勉強になります。ありがとうございます。

で、ちなみに実際に社長は何で稼いでいらっしゃるのかなっていうのが、ちょっと今日気になるところではあるんですけども。

北川：私は、以前ひまわり証券のリーディング会社がありまして、ひまわりインベストメントという会社がありました。

そこの社長もしておりましたし、兼一ディーラーとして日経225の先物オプション、それからFX、商品先物取引、この3つをすべてやってきました。

二谷：いくらぐらい動かしてたんですか？

北川：当時は20億お金。

二谷：20億。なるほど。

北川：20億のお金をディーラー10名ぐらいで動かして、それぞれ割り当てましてですね、やってきたんですけどもね。(23:59)

そういうディーラーの経験もあります。

長く商品先物取引もやってきたものですから、商品先物取引で値段の動きというものでは非常にわかりやすいといいますかね。

トレンドが出るからどちらかと言うと大きく取れるし、面白い。

あまりトリッキーな動きをしないというのがありますので、ですから商品先物取引が一番得意と言えば得意なんですね。

二谷：なるほど。あんまり商品先物って、僕はまぁ、聞いたことはあるんですけども、やったことはないんですけれど、実際どうなんですか？稼ぎやすいというと、どれくらい稼げるものなんですか？

北川：そうですね。商品先物取引と言いますと、みなさん世間的な評判と言いますかね、あまり儲かった話は聞かないとかね、ということを私も耳にしますけども。

だけど、儲けてる人は儲けてるんですね。

例えば、ジム・ロジャーズという有名な投資家がいますけども、彼は世界中をまわってですね、何か良い投資先はないかなと、常に探してるわけですね。(25:00)

彼がずっと中国に、日本に来る前は中国におりまして、中国でいま非常に穀物が不足だということで、特に小豆がとれてないと、これは小豆の相場があがるぞということで、彼は日本に次に寄りまして、日本の証券会社に口座をつくりましてですね、すぐ小豆を買いました。

やっぱ半年間で小豆相場で20億円。

二谷：20億円ですか！はぁ！

北川：はい、利益を出したというふうな話は、私も聞いたことがあります。ですから、相場さえ動けばですね、あるいは儲かるものであればですね、そして、それを儲けるような売買ロジックをつくれるんであれば、僕はFXだろううが、日経225だろうが、オプションだろうが、何でも私は良いと思うんですね。

二谷：なるほど。

北川：FXも先物じゃないんですけども、レバレージと言うのは25倍と決まってますので、日経225もだいたい25倍のレバレージですし、商品先物取引もだいたい20倍～30倍のレバレージですから、みなさんほとんど一緒なんですね。(26:03)

呼び方、商品が違うだけで、売り買いの仕方というのはみんな同じなんですね。ですから、全く違いはないと思います。ただ、値段の動き方が違う。動き方が違うんで、売買ロジックが違ってくるというだけのことなんですね。

二谷：じゃあ、いま北川社長がやっているロジックで、実際に金融先物で取り引きされて、実際どれくらい利益出てるんですか。

北川：そうですね。今私どもは、先ほど言った東京金、東京白金、東京ゴムと、東京ガソリンの4銘柄を週7日配信してるんですけども、この4銘柄昨年1年間でですね、200万円の利益が出てます。

これは、各銘柄1枚ずつ売り買いした場合に。

この1枚というのは、だいたい証拠金にしますとだいたい10万前後ですから、昨年の実績といいますと、35万の証拠金、35万の証拠金で200万の利益と。(27:02)

二谷：え、35万円で200万ですか？めちゃくちゃ利益出てる。

北川：ただ、35万きっかりでやりますと、1円でも逆に引きますと、～～発生しますので、昨年1年間で最大損した場合、1年間で一番運の悪かった人は、35万500円の損なんですね。

ですから、最低35万の証拠金プラス500円の資金がないと続けられないということになりますので、我々は想定元本だいたい100万、想定元本100万でお取引されていただければ、200万のリターンは十分可能だと。

二谷：じゃあ、100万円くらいあれば、実際200万利益が出たってことは、300万円になったということ。

北川：そういうことです。

二谷：すごいですね。

北川：ですから、これを毎年ですね、昨年は非常に相場が動かなかった。

二谷：それでも動かなかった方なんですか？

北川：ええ。FX、あるいは株は動きましたけども、商品先物はあまり動かなかった。(27:36)

動かなくてもこれだけのパフォーマンスが出てますので、これをずっと続けていけばですね、6年後にはこの100万がですね、1億以上の、手数料、税金もろもろ差引ましてね、1億円以上の利益がでるわけです。

二谷：100万が1億ですか！？

北川：そういうことです。

二谷：全部引いてそれくらい？

北川：そういうことです。

二谷：それすごいですね！

北川：ま、計算していただければ、そうなります。

二谷：今、実際にそれをやって、結構利益が出てらっしゃる方もたくさんいると。

北川：そうですね。我々も当然やってますし、私たちの社員もやってますし、身内のもの、あるいは株主、そういった方もこれと同じ取り組んで今やってます。

皆さん、それなりに実績を残しております。

二谷：なるほど。それじゃあ、やっぱりそれだけの利回りが出るということは、金融先物っていう読みやすい相場と、あるロジックというのが重なったことによって、それだけ高い利回りが出ていると。

北川：そういうことですね。ですから、その商品に合った売買ロジックを自分で考えて、そして過去数年間のバッグテストをやって、そして確実に儲かると、利益が出せるというようなことで、それを続けていくということが大事ですね。(29:06)

二谷：そうなんですね。僕ちょっと聞いてみて、めちゃくちゃやりたいなと思ったんですけれども。

北川：そうだと思います。みんさん、そうだと言われます。

二谷：そうなんですね。全く未経験でもすぐ始めることってできるんですか？

北川：証券会社、商品先物取引のできる証券会社がありますので、そこにまず口座をつくっていただいて、そしてそこで当然お金を100万だけ入れていただくと、でも100万ではなく、50万でもいいんです、それはね。

想定元本を100万として、最大100万くらい入れるよという、100万くらい投資するよということでやっていただく。

入れるのは別に50万でもかまいません。

二谷：なるほど。50万くらいで始められるんだったら、なんかちょっととりあえずテストして、上手くいくようだったらけっこう入れれば、相当大きなお金になりますよね。

北川：そうですね。ですから、想定元本が100万であって、実際の預けは50万。(29:58)

それが年間200万の利益を生み、そして6年後には1億の利益を生むということですから、非常に私はこれは素晴らしいと。

昨年の7月から我々営業始めてますけども、現に使ってる方からは、もう非常に素晴らしいと、目からうろこだと、相場を20年間やってるけどもこんなものがあったんだと、こんなことが出来るんだというお褒めの言葉をいただいております。

二谷：そうなんですね。ちょっと色々話聞かせていただいて、是非僕もやってみたいなと思うんですけども、実際まだ僕自身、商品先物について全くわからないですし、聞いてらっしゃる方もその辺すごく興味があるんじゃないかなと思いますので、ちょっと今日はもうお時間けっこう経ってしまったので、是非ですね次回、その100万円から1億にしていくようなロジックだったりだとか、具体的にそのトレンドを見やすい先物のマーケットについて、色々詳しく聞かせていただきたいと思うんですけれでも、それはお願いしてよろしいですか？

北川：分かりました。

二谷：ありがとうございます。

ではですね、次回北川社長の方からより詳しくですね、聞かせていただきたいと思いますので、次回の動画も楽しみにしていてください。(31:02)

ではですね、本日はどうもありがとうございました。

北川：ありがとうございました。